

上野村	廣原村	佐田村	下芥田村	上芥田村
上方新田村	下方新田村	東尾山村	大内村	下新井村
上美井村	河原村	田井村	山川村	馬渡谷村
大工村	鍛冶屋村	湯谷村	田谷村	真山古村
玉正古村	新田村	折山古村	中ノ系村	上系村
明末古村	新田村	夜尾村	落方村	下郷波田村
金山古村	新田村	新田村		
言ハ子九百二十石八斗五合				
賀東郡の内				
福積村	曾我村	貝原村	垂水村	窪田村
多居村	家原村	中村	北村	梶尾村

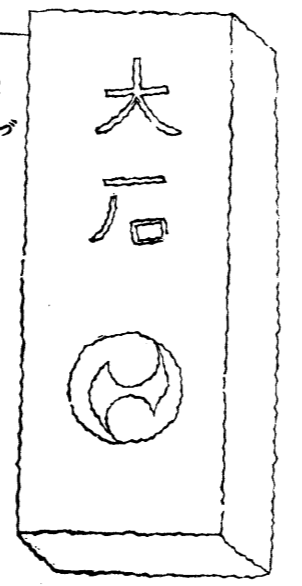
甘栗村	上田村の内	仁我井村	大川村	津部村
黍田村	下三軒村	上三軒村	牧野村	多井田村
田中村	北野村	河原村	野村	
言ハ子二万一石九斗七升四合				
佐用郡の内				
栗江村	海田村	蔵垣田村	中山村	山田村
言ハ子二万十二石二斗				
赤穂塩漬ありび不塩の製衣造				
赤穂の塩漬ありび不塩の製衣造				
一畝此阿子塩水と垂る穴一づありて一畝まゝと煮て百穴ありそ				
の穴此上子砂とくまゝこころと築く大き三尺四方をり上下				

一、延とまでこれ小潮とほぎかすればおのづから汐とて垂
 垂小濁るあり。○潮とあるは、いふは、藻堆とて藻堆うき
 あつむきとてあつむよとて藻とつきあつめてそれに入れたる潮
 と焼くあり中ごろより二まてやめて砂の上へ潮をまきて
 日小平く、それも又うきうて今ハその仕方最便ありうの塩漬
 の四方は、海とありて、それへ海より潮を引き入れて、常は、海
 なるふ、又その廣き間ハ、幾地筋も地面の岸は、溝と掘りて、四方の
 潮と通せし引き地、底よりおのづから潮あつ上りたるを日小晒
 してうきあつめ、これ垂れ垂の上へ塩砂とく、その上へ潮あつて
 汲てほぎかけ、彼沙の塩とあつひ落す、煮たり、く、垂れたる砂、残
 又晩方ありて、夜出、地へ掘き、粗とめてうきあつ、一掃とめてお

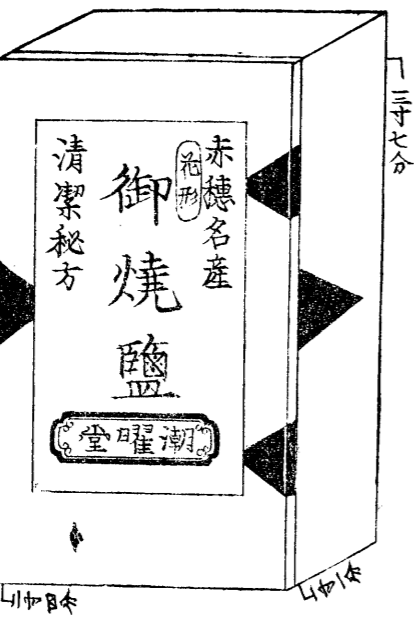
つけ一板と終れば、同じく、鹵氣これ砂に吸ひあげ、とて書る
 までも、日ふきくやと、鹵氣いふ、上へ浮くあり、これを集め、
 垂ると前よりやと、ころの如く、毎日これぬくすあり。○垂ると
 の二穴の潮、毎日二斗五升、ゆて百穴十五名あり、一斗を煮るところ
 一斗二斗、やと一斗板の周は百穴の潮を十五斗、煮盡せり
 但、夏三月の月ハ潮多く、二日一板を煮るあり。○塩ハ水
 一升と煮て、五斗とゆるあり、一斗をゆるくと、二斗、煮板は十
 石をゆるくあり。○釜ハ小石とる炭あり、堅く煮るものあり、その
 大き、一間小二間、わりの角、あて、海さ、三斗、わりの角、竈ハその廣さ
 一丈、小築おけ、焚火、換く、明く、あつ、此釜と、造る、ハ釜の、大き
 此板と、へつ、の上、二、五、その上、石、二、寸、わりの角、ある、煮、ま、と、あり



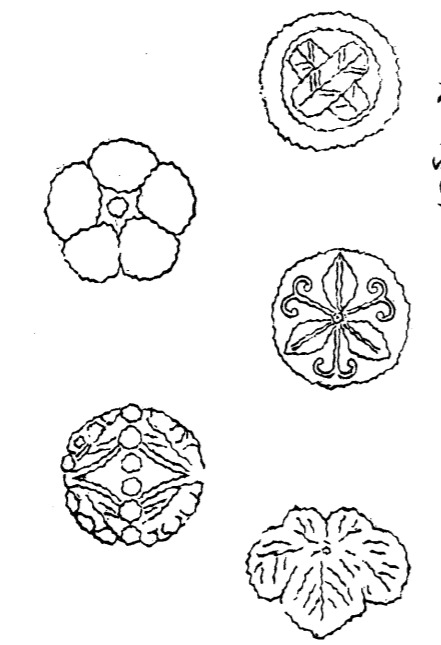
へ土を粘一 撈糲一 其葉を和葉の灰とを和して塗るゝ又
 その釜の底へつけて 秩の両手とらふけ 並きその約り手とふ
 灰をく堅むとありかいて 上より火を焚きれうよき石とを焼いて
 下の柱と扱きとあり又下より火を焚きれうす 是すて火の加減大
 事ありとる釜を用ゆる日数ある二三日をうりやして崩してあ
 新子造る焚くこと書扱終す 其碱一これと差塩とす ○塩を
 煮て釜を子残りしとやあぐると言冷して煮る申子加ぬら塩其
 碱一是と差塩といふ魚内仕塩中一又温あるを加ぬら味あぐとあり
 西濃一石を製す 古濃といひて 上石あり 味噌 猪油とあり 東濃あり
 俵を五斗を納るはこれを江戸俵といふ 西濃ハ一斗二三升を小俵あり
 名産花形塩の旨



大石



三寸七分



天野屋利彦の傳

おまのヤリ 天野屋利彦の傳
 天野屋利彦 赤穂名産の長と勤めて先祖より
 天野屋内匠殿の家子出入して厚恩を蒙り一々元禄年中

の才、其子より、武士會後する、附子及びて、刺毒この種、動と聞くと、早速志、徳へ、之り、之い、之、八、松、身、分、お、應、比、内、用、も、あ、る、を、
 之、や、う、も、心、力、と、お、り、少、事、公、仕、る、づ、ま、し、と、お、い、し、其、の、存
 義士、亦、後、仇、の、事、と、盟、約、し、之、を、と、も、守、り、秘、し、し、外、子、洩、れ、ん
 こと、と、お、も、く、し、こと、と、刺、毒、傳、り、誠、忠、あ、り、ま、し、り、て、密、談、子、か、る、と、
 と、な、る、り、然、る、も、大、名、内、務、助、ひ、さ、く、り、刺、毒、と、お、謀、り、鎧、長、刀、を
 の、外、れ、及、具、ま、ま、刺、毒、より、之、を、職、人、に、中、つ、け、送、り、せ、り、後、
 士、八、重、師、大、坂、江、戸、子、お、の、隠、れ、住、之、刺、毒、ハ、大、坂、子、あ、り、て、妻、子
 お、ま、い、居、し、つ、る、者、お、を、油、く、隠、く、自、身、に、あ、り、ま、て、職、人、へ、中、
 つ、け、出、來、せ、し、お、ま、い、と、い、ふ、と、は、之、と、江、戸、子、お、り、つ、る、と、い、ふ、り、
 小、鍛、冶、の、神、力、采、と、い、ふ、者、あ、り、奉、行、お、し、祈、へ、之、る、ハ、長、柄、の、鎧

と、あ、つ、し、一、若、あ、り、之、れ、お、好、奇、是、を、お、お、り、子、ヤ、一、出、る、り、と
 い、つ、あ、つ、て、奉、行、お、し、く、刺、毒、と、噂、ひ、出、し、之、の、報、と、尋、ね、た、る、
 る、子、刺、毒、中、す、や、う、ハ、不、審、と、驚、り、奉、行、以、尤、子、ハ、一、と、も、こ、の
 及、具、ハ、市、中、あ、り、も、盗、賊、の、用、人、子、あ、つ、つ、一、子、お、遠、こ、れ、を、
 外、子、子、細、子、き、よ、り、中、々、と、奉、行、お、し、て、も、其、の、製、作、能、の、ヨ、リ、奉、
 子、是、あ、る、を、詰、問、さ、る、刺、毒、中、す、ハ、あ、る、武、家、の、之、夫、を、さ、れ、る、
 仰、付、ら、れ、さ、る、お、ま、い、お、い、ひ、つ、る、を、り、と、云、え、つ、る、ハ、大、坂、中、あ、る、渡、
 法、屋、と、も、こ、の、よ、し、と、お、傳、人、刺、毒、傳、り、誑、了、及、具、と、い、ふ、り、こ
 ち、祈、へ、出、た、北、八、重、師、お、し、り、刺、毒、と、召、捕、り、拷、問、す、る、と、き
 ひ、一、れ、れ、ど、も、刺、毒、意、を、變、へ、い、さ、す、も、あ、つ、つ、一、日、け、と、申、さ、
 さ、す、め、及、妻、子、お、し、り、召、捕、り、子、あ、り、て、拷、問、す、れ、ど、も、一、向、子、存

せざるおもむきと欲き中より刺傷の中なるを此事一向に妻子
 およひおのりおどりの存しうるとはあつて私一人の意めてある
 方よりおまれあつて中よりあるされども刺傷拷問せざる
 益まきびく刺傷のおどりと書らざるをどうもさうさうとさう
 白状し及たすり遂に氣絶すると救ふし及ぶとつり刺傷
 中すやうおどらぬこの事と頼もれし時死罪はうけて免
 悟の事あり唯おどらぬ事と書らば御下あつて御下あつて夫
 まては免とぬぐひまゝに只今はとてひ此身と粉子碎るる
 とも白状は仕えずと申してはらるるひまゝに御下あつて
 初もあつたれておどらぬ事と書らば御下あつて御下あつて
 暮あつる年ふあつて世間にはまはれさうさうさうさうさうさう

月十有る赤穂の謀士赤松上野介登長へお討して先君の仇
 上野介及て討つるしよと書らば御下あつて御下あつて
 とおれして申役人へ白状仕るまはせと申して申す事なり
 小白洲子守出しその趣を尋ねらるるに刺傷中なるを私事先
 祖より浅野家の御恩と書りお家来同様にお召されしお
 このおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 大望の企おれありついでを思はるるおれおれおれおれおれ
 不かつて武具おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 まつりおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 志ありおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 先君おれおれおれおれおれおれおれおれおれおれおれ
 白状仕るさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さへいまでも、水戸を逃ぐるあしお一人より、事未だ歎くさへ定めて
 おろしき、大石孫をいれ、水戸明のうへ、刑罪中も、水戸達をさるへ、あつて、大
 石も水の泡子きり、ゆとつ、まへ、く、い、あ、松が、や、を、粉、子、碎、く、ま
 ともや、あ、げ、さ、る、不、誠、子、忍、れ、か、い、あ、り、この、上、へ、お、れ、を、く、ハ、妻、子
 家、僕、ご、も、ハ、一、切、存、中、さ、る、何、と、ぞ、彼、未、り、一、年、ハ、有、免、下、され、松、一、人
 事、ハ、い、や、う、の、刑、罪、を、蒙、り、ゆ、と、も、辞、し、中、さ、ん、死、す、ハ、不、生
 る、ふ、ま、さ、り、や、あ、り、と、涙、を、あ、ぐ、つ、つ、中、々、も、ふ、そ、存、初、の、人、と、そ
 の、義、心、を、感、し、や、ぐ、て、あ、い、議、せ、し、死、罪、一、等、を、宥、さ、れ、て、放、逐、せ
 ら、れ、家、財、ハ、そ、れ、俸、子、下、さ、れ、て、ゆ、と、の、如、く、郷、の、長、と、し、む、る、ゆ、子
 初、ち、ろ、と、稱、す、父、の、刺、毒、書、ハ、本、師、子、印、ノ、洛、北、の、瑞、光、院、子、寓、居
 す、ハ、津、野、家、子、舊、恩、あ、る、ま、あ、り、て、あり、姓、名、を、改、め、松、永、土、言

ことよ、あ、と、つ、て、終、る、と、つ、つ、つ

や、あ、一、と、よ、あ、つ、つ、一、よ、い、め、い、やく、あ、つ、つ、あ、り、の、
 拜、史、氏、云、志、棟、の、諸、士、盟、約、を、結、ぶ、者、を、い、れ、二、百、人、あ、り、
 づ、漸、く、離、散、し、て、さ、ら、う、ま、四、十、餘、人、遺、り、て、大、石、内、務、助、と、志
 と、併、せ、て、明、誓、ひ、を、結、ぶ、ゆ、と、も、漫、り、子、腹、心、を、あ、り、さ、る、ハ、密
 謀、の、い、さ、さ、ら、う、つ、つ、と、他、子、洩、れ、ん、と、を、お、り、人、が、あ、り、刺、毒、書、ハ、高
 買、子、れ、ご、も、彼、子、承、す、り、大、事、を、傳、す、ハ、よ、く、そ、の、人、を、知
 る、と、い、ふ、へ、先、子、刺、毒、書、志、棟、子、印、ノ、洛、北、の、瑞、光、院、子、寓、居、
 て、庫、中、の、巻、拍、風、入、れ、あ、り、一、小、珍、器、ご、も、頗、多、う、ら、ま、二、三、の、
 刺、毒、書、大、石、内、務、助、子、印、ノ、洛、北、の、瑞、光、院、子、寓、居、
 小、内、務、助、二、三、を、許、さ、る、ふ、す、り、刺、毒、書、あ、り、と、お、え、せ、り、
 その、巻、拍、風、の、役、人、より、大、石、一、許、へ、や、つ、つ、を、預、り、の、玉、盤

終失せり同役ども不あひぎお議すふ刑くり番ばんの外がわに此こゝろ両りやうより
 する考かみ子こよりあつてさあ刑くり番ばん子こ疑うたがひあり小こ吟ぎん味みと殺ころす
 ーや生いたれハおのるもとの外がわに登のぼりま刑くり番ばんとよびてやさる
 るを預あづかりし此こゝろ若わかより中な出でるハ玉たま監かん終しゆう失しつひつらら志しるより
 刑くり番ばんより外がわよりなるもの子こより我われホとその方かたの盗ぬすままさ
 ることハよく知しることを諸しよ人にんの疑うたがひハ解とけがうう一いつ事こといいう
 せうせうちんやとさうさう刑くり番ばん云いハ松しょう監かん一いつ子こおままれれずずすす
 やま罪ざい科か子こ刑くり番ばんをまててせせも登のぼりまるる体てい子こ後ご人にんの
 事ことと内うち匠しゆう匠しゆう及および子こヤヤクク進しんハ内うち匠しゆう匠しゆう笑わらをれるる積つみみ玉たま
 監かんと申まをしていいちいちちちハ吾われ玩がん弄ろうののめめ小こ持もち来きれり刑くり番ばんが知し
 ることハああらら彼かれと登のぼりまるることおおれれらら中なににされれるる大おほなるる

刑くり番ばんが魂たまの轉ま動どうせせらるることと察さつ一いつさててこそ大おほ事こととちちち任にん
 せうせうととええららああれれどもも一いつ朝あさののととありりううのの擗か同どう也なり
 らうらうとと嚴げん刻こくととどどももつつひひ子こ白しろ杖じやう及およびびををぐぐとと一いつ三さん洩しやう
 りりババ実じつ子こ諸しよ士しのの大おほ聖せいおおりり亡なるるのの恥ち辱じやくととなりり天てん下か乃なり
 人の笑わらひひととるるんんことととおおれれ死してて盟ちやうひひ諸しよ士しのの志しとと遠とほ
 一いつむむととその功こう勲くんハハ千せん餘じゆ人にんより劣せうらするといいふふ一いつ嗚な呼こをを平へい
 の時ときに武ぶ具ぐととりり集あつむむるるここれれ殺ころ逆ぎやくのの疑うたがひひ逃のがれれずず
 弘こう明めい子こ登のぼりまるるとと登のぼりまるる刑くり番ばんハハ妻さい子このの鞭へん筆ふでををれれるる
 の若わか痛いたととええるる子こ刃やいばををびびずず明めい喜きハハああつつてて白しろ杖じやうすす一いつととししつつららささ
 ままハハ事こと行やふふももらられれ殺ころひひとと許ゆるさされてて志しをを一いつ吟ぎん味みのの止とまるる
 一いつハハ尋じん常じやうのの罪ざい人にんとと吟ぎん味みするるふふららるる事こととと殺ころひひららととわわらら

てう許さる人まや、これ柳斎が誠忠の人と感動せしむるよしあり
てなり。この一篇も大坂の所人増屋伊藤とつる者の志
すところなり。ほは頼子杖の文と讀みて上梓世に傳ふ。これ
本まで希あり。そくハ甘雨草叢書に収録す

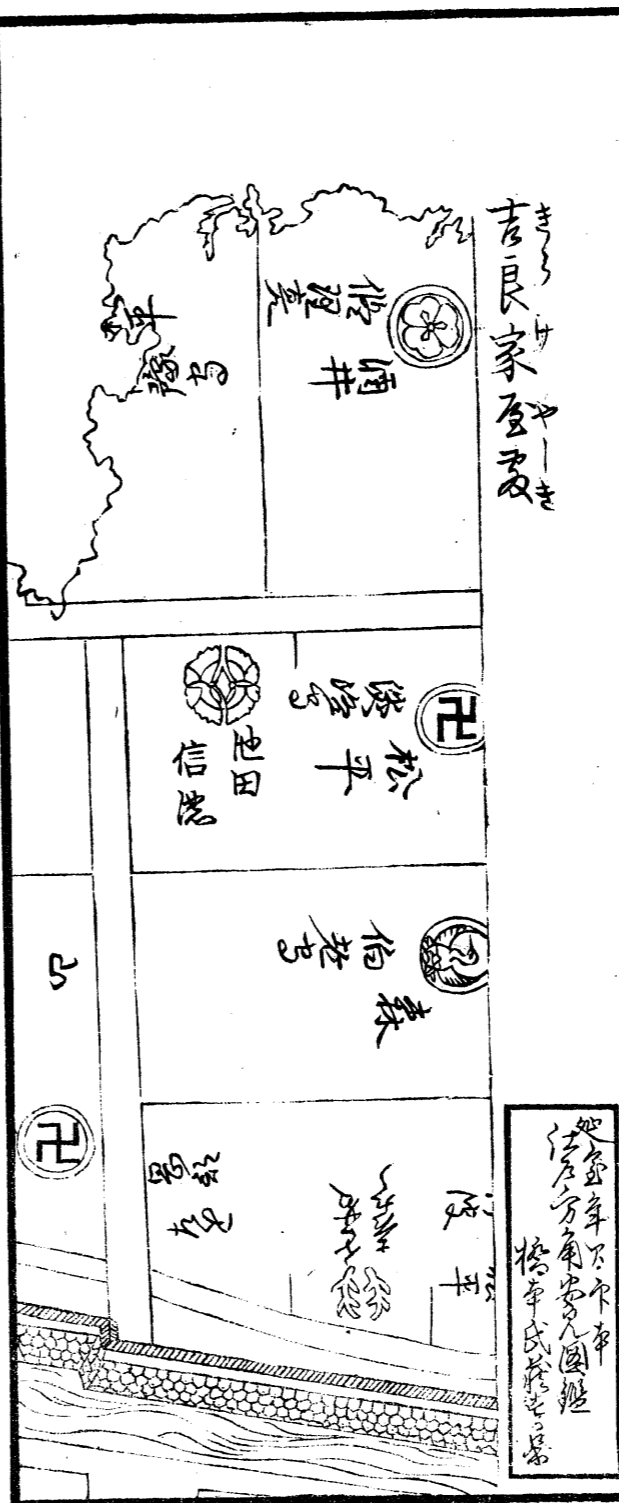
一説は柳斎の赤穂侯の志と畫し、その志を誠しあること
あり。柳斎書に物語り、その志を先年我亦幸内匠匠極のの茶
席の末まつりあり。小或人より商人をいふ。柳斎の志もさう
て信義とていふハ極難しとて、その志を侯の志とていふハ、この柳斎
と云ふハ、幸に信とていふ義とせんず。その志もさうく士も及ぶ
考なりとて、これより我この一言とて、死てあり。難きと骨髄に徹
て、死命とも君ごあり。ハ惜まざるとして、その志もさうく、こふ於て柳斎

う赤穂の志を愛して、これ難い事なれども、これよりその志を
の一言も玉益給失の耐業より死に受せしむる。内匠匠極は、
その人ごありと知り、その志もさうく、大坂の腹心とて、大義と果
せる。これ柳斎が志業に感動し、これより大坂の人と知り、これ
さういふ

赤穂藩文をこれより、えやすうん、その志もさうく、假名書きの
と感動する人よ示すありとて、これハ菅原重忠とていふ人の
解し、その志もさうく、○を以て文政八年の冬、これ天野登柳斎百回
忌よあさり、その志もさうく、一族の人追善せしむる。柳斎の志も
あり、大坂の志をこれより、大坂内平野町に住居す。赤穂の
事あり、その志もさうく、改め松永土高と稱し、洛外長崎村に退隱

享保十二年正月二十七日没すは名ハ
 法正院土着日の子居士
 本傳不没年月法名とあるまはしうて詳よふあるは抑專の
 話子内平所子住しと大坂の名不記延宝の平本難波格
 子あり如継年考とありとす

吉良家全表



延宝年下平本
 法正院土着日の子居士
 格年氏格年氏

